よろこび

日蓮宗 顕聖会

本　山　妙顕寺
長音山　本要寺

『よろこび』三十八

日蓮宗の正式のお葬儀

貫首　齊藤　日軌

近頃、葬儀、法要、先祖の供養を簡易に済ましてしまうことが多くなりがちだと先月号で申しました。しかし葬儀は、故人がまっすぐに浄土・仏様の世界に帰る為めの大切な儀式です。まず葬儀によってまだ死んだことを自覚していない霊も自分が死んだことに気づくことが多いのです。葬式もしないで火葬にしたりするとまだ死んでいるのに焼かれてしまうと驚く霊も多いようです。日蓮宗の葬儀には、お経の力、仏様のお慈悲による神通の力、お題目の力によって死者を浄土に導くのです。その中心の儀式が引導です。死者にその死を悟らせ、霊魂が仏の命の永遠であることを教えます。また釈尊、日蓮聖人にお願いし霊を浄土に導いてもらいます。

日蓮聖人は、ご自分の弟子や檀家さんが亡くなったら必ず浄土にいたるまで手を取り、道案内をすると申されています。また閻魔大王さんにもよろしく伝え浄土へ詣る許可をもらってくれます。以上のことが全て行われるには、日蓮宗の正式な僧侶により葬儀行われることが大切です。また日蓮宗寺院の檀家と成り普段からお寺に参りお題目を唱えることが大切です。

みおしえ

「心すでにけがれを去り
心よくいましめに住し
自らおのれをととのえ
業（わざ）、真理（まこと）にそわば
袈裟（きいろき）をまとわんに
げにそのあたえありず」（法句経十友松圓諦訳）

「けがれた汚物を除いていて、戒律をまもることに専念している人は、自制と真実とをそなえているから、黄褐色の法衣をまとうのにふさわしい」（中村元現代訳）

心に煩悩の悩み無く、余分な欲望、愚かさ、瞋を捨て自分の心、体、技能を調和し整えられた人となり、行いが御仏の教えに叶えば袈裟を着る僧侶また制服を着るプロにふさわしい。難しことですが日々少しずつこころがけたいものですね。

心の言葉

南無妙法蓮華経と唱え
心、体、言葉、行いを整え
よう